

社会貢献活動

人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む当社は、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。

企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、事業活動を通じた取り組みはもちろん、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みづくりや、地域に根差した活動を続けています。



「人間愛」を活動理 地域に根差し、社会

社会貢献活動の考え方

		
住文化向上	次世代育成	環境配慮
<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員のボランティア活動 ● チャリティー参加 ● 国際協力 ● 緊急支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO・NGOとの協働 ● 活動支援 ● 教育機関と連携した教育支援活動 ● 事業活動を通じて 	

企業理念の根本哲学「人間愛」

「NPOと連携し、障がい者の自立を支援」

2000年からNPO法人トゥギャザー（奈良市）と協働し、障がい者自立支援に積極的に取り組んでいます。その一環として障がいのある方が作る SELP（セルフ）製品*を、全国で開催する現場見学会「住まいの参観日」や展示場への来場者にお渡しするノベルティーとして採用。2012年度は3万5045個を購入しました。

*SELP製品：障がい者が社会福祉施設で、職業訓練や社会参加の実現を目的に働き、作った製品



木造住宅「シャーウッド」の端材で作った「鍋敷き」と「ストラップ」

「障害者週間行事」に参画

2005年から、本社のある梅田スカイビルで開催されている「障害者週間行事」（後援：内閣府など）に参画、運営に協力しています。

「障害者と社会をつなぐシンポジウム」では、「障害者優先調達推進法」の成立をテーマに基調講演およびパネルディスカッションを実施。行政・企業・NPO・市民が共に考え、話し合う有意義な場となりました。



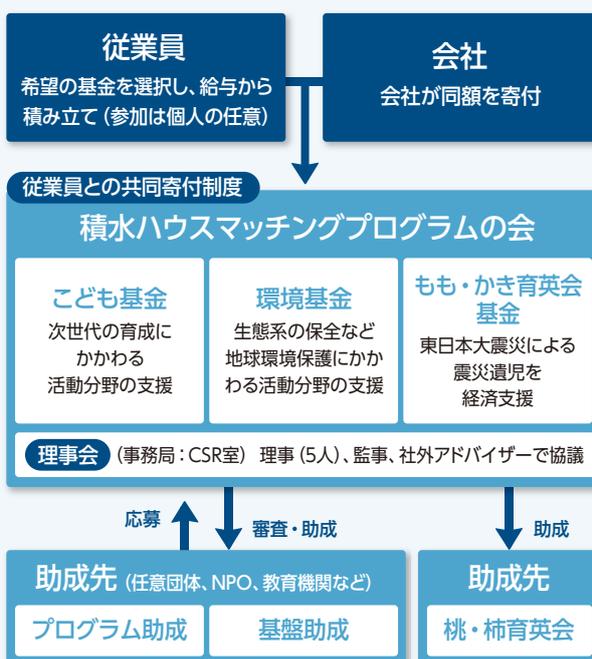
150人が参加。パネリストと聴講者が一体となり、話し合う場となりました

念に、多様なセクターと協働。 課題への取り組みを継続します

社会課題の解決を担うNPOなどの活動を支援 積水ハウスマッチングプログラム

従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(会員数約2600人)を2006年度から開始。NPOなどの社会課題解決を担う団体を支援しています。このプログラムは、従業員が給与から希望する金額(1口100円)を積み立て、それに当社が同額を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」「環境基金」の2基金は、会員代表で構成する理事会で支援先を決定します。また、東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家 安藤忠雄氏)を寄付先とする「もも・かき育英会基金」を設置しています。2012年度は「こども基金」「環境基金」で21団体に1660万円を助成。「もも・かき育英会基金」は今後10年間で1億円の寄付を実施する予定です。

■「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



■プログラム助成(団体からの申請プログラムに対する助成)

〈こども基金〉7団体 860万円

- NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN
- NPO法人 ADRA Japan
- NPO法人 湘南DVサポートセンター
- NPO法人 日本グッド・トイ委員会
- NPO法人 国境なき子どもたち
- NPO法人 チャイルドライン支援センター
- NPO法人 フローレンス

〈環境基金〉6団体 640万円

- NPO法人 かみえちご山里ファン倶楽部
- NPO法人 生態工房
- 筑後川まるごと博物館運営委員会
- NPO法人 白神山地を守る会
- NPO法人 地球と未来の環境基金
- NPO法人 日本国際ボランティアセンター

*この他に、団体のインフラ整備、活動の質の向上など、団体の今後の発展に期待して助成する「基盤助成」を、8団体(こども基金:5団体、環境基金:3団体)に実施しています。

地域のコミュニティづくりを支援 公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」

1996年「六甲アイランドCITY」(神戸市東灘区)と深いかわりのある当社とP&G社が共同で、神戸市における国際的・文化的なコミュニティづくりに資する事業や活動を助成する基金として公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」を設立。

NPOなど多くの団体のコミュニティづくりの活動を支援するために、2012年度までに延べ496件、3億6596万円の助成を実施しました。

全国51大学が参加する 「住空間ecoデザインコンペティション」を支援

2005年度から、2.4メートル立方の空間に納まる原寸大モデル制作を前提とした学生コンペ「住空間ecoデザインコンペティション」に参画し、運営に協力。住空間における環境設計意識の啓発、産学の連携強化、学生間の交流促進、若手デザイナーの育成を主目的に開催しています。2012年度は全国51大学から222作品の応募がありました。

小児がんと闘う子どもが、 家庭のような環境で治療に専念できる 「チャイルド・ケモ・ハウス」の建設に協力

「チャイルド・ケモ・ハウス」は、NPO法人チャイルド・ケモ・ハウスが2006年から建設実現に向けて活動を続けてきた「がんと闘う子どもたちが暮らすケアホーム」です。「病院」や「施設」ではなく、「家」に近い環境で、親やきょうだいと暮らしながら治療を行えるメリットがあります。当社はこれまで、従業員と会社の共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」(P.70参照)を通じて、NPO法人チャイルド・ケモ・ハウスの活動を応援してきました。今回の建設にあたっては、約2億2000万円の寄付を実施したほか、総合設計・企画および施工を担当しました。また、建設後も、さまざまなかたちで運営への協力を予定しています。



〈建築概要〉

【建築地】神戸市中央区港島中町8丁目5番3 (ポートアイランド 神戸医療産業都市内) 【建築主】公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金 【総合設計・企画】手塚貴晴、手塚由比、株式会社手塚建築研究所、積水ハウス株式会社 【施工】積水ハウス株式会社 【構造・規模】重量鉄骨造(ベレオ) / 地上1階建 【延床面積】1931.50㎡



自然光を多く取り入れる天窓を随所に設置。子ども視点のクリーンな空気環境を実現する空気環境配慮仕様「エアキス」を採用しています (P.62参照)

VOICE

理想的な治療環境づくりの支援に感謝します

2005年6月、「小児がんの子どもと家族にとって、理想の治療環境とは何か」を考えるため、医療関係者と患者さんご家族が集まったことが、「チャイルド・ケモ・ハウス」の活動の始まりでした。小児がんの治療は、「入院が長期になる」「抗がん剤の使用による免疫機能の低下で、かぜなどの感染症になると命に関わる」という二つの特徴があります。私たちは「がんになっても笑顔で育つ」「理想の病院は家です」というキャッチフレーズのもと、小児がん治療時も日常生活を維持し、子どもが健やかに成長できる環境を提供したいと考えています。

多くの方々からのご寄付と、積水ハウス様、手塚建築研究所様との夢のコラボレーションにより、感染症対策に重要な空調など、最新の技術を採用したこの理想の施設は完成しました。積水ハウス様には、施設建設費の2億円以上のご寄付をはじめ、研究助成などに継続的なご支援をいただき、心より感謝しています。皆様の温かいお気持ちを励みに、これからも新しい医療のかたちを目指していきたいと思ひます。



チャイルド・ケモ・クリニック
医院長

楠木 重範 氏

子どもの生きる力、感謝の心をはぐくむ 「弁当の日」応援プロジェクトに参画

「弁当の日」は、「買い出し」から「片付け」までを子どもが一人で行うことで、「食べ物の大切さを学ぶ」「感謝の心をはぐくむ」「料理を作る楽しさを感じる」ことを目的に、子どもの生きる力をはぐくむ取り組みです。この「弁当の日」の取り組み趣旨に賛同し、当社も応援プロジェクトに参画。2012年8月に、総合住宅研究所で提唱者の竹下和男氏によるセミナーと、子どもたちによる弁当づくりのイベントを開催しました。



(参考)「弁当の日」ホームページ
<http://d.hatena.ne.jp/bentounohi/>

20人の子どもたちが弁当づくりを実施しました

全国の学校やイベント会場で 環境教育プログラムを実施

「エコ・ファースト企業」として環境大臣と取り交わした三つの約束「CO₂排出量削減」「生態系ネットワークの復活」「資源循環の取り組み」をテーマに、暮らしの中でできる省エネや自然環境保全、資源の有効利用の大切さを「楽しく学ぶ」三つの体験型学習プログラムを、全国各地の学校への出張授業やイベントなどで実施しています。



「楽しく学ぶ」をコンセプトに、次世代を担う子どもたちと一緒に環境について考えます